

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和 3年 2月 8日

公表: 令和 3年 2月 16日

事業所名 ウィルはあと高浜

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		子どもたちにも協力してもらい、スペースの確保をしています。	広い空間ではありませんが、活動ごとにスペースの確保をしています。
	2	職員の配置数は適切である	100%		現在配置数は適切です。	利用定員数の増加に伴い職員を増やすことを検討しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%	バリアフリーではないが、職員や保護者と車いすなどの対応をしています。	子どもたちが過ごしやすいように、構造化された工夫は行っていますが、物理的なバリアフリーの対応にはなっていません。職員で対応していこうと思います。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	業務改善には日ごろから取り組んでいます。	職員も増えるため、PDCAサイクルを再度周知していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	25%	75%	今回が初めての実施になります。	今回の結果をもとに、保護者等の意向等を把握して、業務改善につなげていこうと思います。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	25%	75%		ホームページで公開していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%		第三者評価としての契約はありません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		外部研修にでています。内部研修も行っています。	コロナ禍の為、外部研修には参加できていませんが、内部研修は月に1回行っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		契約時に保護者と情報の共有に努め、課題の分析しています。	今後も、保護者からの情報を基に職員間で分析し、放課後等デイサービス計画を立案しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	事業所で作成したアセスメントツールを使用しています。	事業所で作成したアセスメントツールを使用し、状況把握に今後も努めて行きます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			支援計画を含め、活動内容の振り返り、見直しをしています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			固定化しないように努めています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	登校日、休校日で課題を変えています。	子どもの発達課題によって、日々の課題を設定し支援していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	子どもの状況に適宜合わせて放課後等デイサービス計画を作成しています。	今後も子どもの状況を把握し職員間で分析し、放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		多職種の職員で、専門知識をもとに打ち合わせしています。	多職種で役割分担をし支援しています。今後も行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		支援終了後には、振り返りを必ず行い、次回の支援に活かしています。	利用後に職員間で振り返りを行い、より良い支援が出来るようにしていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		支援については必ず、記録を残すようにしています。	支援した事は記録に残し、より良い支援が出来るよう、職員間で検討し次回以降の支援に繋げていきます。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			支援したことは記録に残し、より良い支援ができるよう、職員間で検討し、次回以降の支援に繋げていきます。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%			職員も増員するため、再度周知実施していこうと思います。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		日々支援している者が、サービス担当者会議に参加しています。	サービス担当者会議には、適した職員が参加できるよう今後も努めていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		学校からのお便りや、行事予定、下校時刻の確認等の連絡を適宜行っています。	今後も学校とも連絡を取り合い、より良い支援が出来るよう努めていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	25%	75%	主治医と連絡を取る必要性のあるお子様の利用は現在ありません。	医療ケアが必要なお子様には、保護者の方から情報を頂き、体制を整えています。今後主治医との連絡体制が必要な場合は適任者が対応していこうと思います。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	25%	75%	保護者から情報を頂いています。	今後情報が必要な際は就学前の情報も収集していきたいと思っています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%	対象児がいません。	今後必要な場合は、情報の提供をしていきたいと思えます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		今後おこなうことが必要と考えています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75%	25%	休休日等は公園などで、障がいのないお子様と交流する機会があります。	事業所内だけの活動にとどまらず、公園や公共の施設などで活動する機会を今後も設け、障がいのないお子様と交流する機会していきたいと考えております。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		100%		今後は参加し、子どもが安心して育つことのできる地域づくりにも協力して行きたいと考えております。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	75%	25%	連絡帳に利用中の様子を記録し、共通理解が出来るようにしています。	利用後には、利用中の様子を伝え、現状の課題の共通理解ができるように今後も努めていきます。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	開所して時間も浅いため、現在は信頼関係の構築をしています。	今後、お子様の利用していない時間に、保護者会などを開催し、支援できたらと考えております。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に、運営規程、利用者負担について説明しています。	今後も保護者に分かりやすく丁寧に説明してまいります。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		送迎時や連絡帳で支援を行っております。	送迎時に保護者から相談があれば今後も支援していきたいと思っております。必要があれば、相談時間を設けて対応させていただきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%	現在父母の会などは開催しておりません。	保護者同士連携や、保護者の声の集約は必要だと考えております。今後事業所内で保護者同士の交流の場が提供出来たらと考えております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		契約時に苦情等があれば、責任者が対応させて頂く旨をお伝えしております。	今後も、苦情等があれば、責任者が迅速かつ適切に対応させていただきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	25%	25%	会報はありませんが、Instagramやホームページで発信しております。	Instagramやホームページをみて安心されるご家庭もあるため、今後も継続して発信していこうと思います。
	35	個人情報に十分注意している	100%		鍵付きの書庫で保管しています。	今後も厳重に保管してまいります。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		口頭だけの伝達ではなく紙面上でも伝達しています。	視覚情報などで確実に情報伝達できるように配慮してまいります。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%	現在は行っておりません。	今後行うことが必要と考えています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		マニュアルは作成しています。	保護者にも周知していきたいと思います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		防災訓練を月に1回実施しています。	今後も、子どもたちと一緒に訓練していこうと思います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%	研修で実施しています。	今後も行っていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	25%	75%	現状では身体拘束の必要性を感じておりません。	必要があれば今後行っていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	現在該当児なし。	今後必要があれば対応していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	25%	75%	事例集は作成していませんが、情報は共有しています。	今後ヒヤリハット事例集を作成し、職員間で共有していきます。